

29

イムノクロマトグラフィー法と Xpert C. difficile を用いた遺伝子検査の比較検討

Clostridium difficile トキシン検査

◎濱野 京子¹⁾、山下 史乃¹⁾、金橋 徹¹⁾、松尾 明彦¹⁾、田中 洋子¹⁾、西山 有紀子¹⁾
京都大学医学部附属病院 検査部¹⁾

【目的】

抗菌薬関連下痢症の主要な原因菌である *Clostridium difficile* (以下、CD) において毒素 (CD トキシン) 産生株を迅速に検出することは、治療および院内感染対策上、大変重要である。Xpert C. difficile (GX-CD 法: ベックマン・コールター) はリアルタイム PCR を原理として、迅速・簡便に CD トキシン遺伝子を検出できる。イムノクロマトグラフィー法 (従来法: アリーア メディカル) との比較検討を行ったので報告する。

【対象と方法】

2018 年 4 月から 2018 年 6 月で CD 抗原・トキシン検査を行った 34 件を対象とした。従来法は、まず便検体を直接検査した。抗原陽性・トキシン陰性の場合、48 時間培養で分離した CD のコロニーから菌液を作製し、再度検査を行う二段階法 (以下、培養法) の結果を採用した。GX-CD 法は便検体を直接前処理液に懸濁し測定した。従来法と GX-CD 法の検査結果を比較した。

【結果】

従来法の結果は、トキシン陽性は 11 件(抗原陽性・トキシン陽性: 3 件、抗原陽性・トキシン陰性: 8 件)、トキシン陰性は 22 件(抗原陽性・トキシン陰性: 7 件、抗原陰性・トキシン陰性: 15 件)であった。培養法で培養されなかった 1 件は解析から除いた。従来法におけるトキシン陽性、陰性の結果と、GX-CD 法の結果は 100%の一致を認めた。

【まとめ】

今回の検討結果では、従来法と GX-CD 法の一致率は非常に良好であった。従来法で培養法が必要な検体の場合、約 45 分で結果を得ることのできる GX-CD 法はとりわけ有用性が高いと考えられた。

会員外協力者: 長尾美紀、松村康史、山本正樹